



街かど gallery



黒木西小学校一年 内藤あおい

ゴッホ展 自画像最優秀賞

まずつまんで確認した鼻を面の中央に描く人間の顔を鼻から描き始めた経験はあおい君には無い。初経験はすべて冒険。子どもは冒険が大好き。「わーっ」歯を剥き出して笑ったその大きな口と歯を描いて、つぎに目それから顔全体に耳を描いたら余白はほんのすこし。そこに満足のもろ手の万歳。十五分で描き上げた自画像である。

植物の花と「鼻」葉と「歯」芽と「目」実と「耳」とは日本語のはじまり。日本を代表する国文学者中西進先生の教えの受け売りだが、そんな話に「ふーん」と疑う子どもの成長は疑いからはじまる。自然と自己の結び付きを自画像から発見するのも美術教育と思ふ。

杉山絵の教室 杉山亜土

さようなら白木小学校 ありがとう白木小学校

130年の歴史に幕
2011.3.24

本校は、創立以来130年、明治、大正、昭和、平成の時代を経て、輝かしい伝統と優れた校風を受け継ぎ今日にいたっています。しかし、平成22年度をもって閉校します。この間、6千有余名の卒業生を輩出していますが、「おきな坂」「すすく山」（校地に隣接する里山）での思い出は全ての卒業生の心に深く刻まれていることと思います。

来る3月24日（木）には、「白木小学校最後の一日」を本校に縁のある多くの方々と過ごすために、10：30より閉校式典ならびにお別れ会を行います。式典では、開校以来のあゆみを「母校、白木小学校とともに」と題して全校児童が発表しますのでご期待下さい。また、卒業写真や閉校記念誌、DVDを見ながら昔の思い出を語り合ったり、「おきな坂」を久しぶりに竹馬の友と歩いたりされてはいかがでしょうか。更に、4月より新たに「筑南小学校」児童となる後輩達に、励ましのお言葉をかけていただければ幸いです。

詳細は電話0943-35-0014（白木小学校）におたずねください。



楽しい仲間たち

八女市立長峰小学校 6年1組



釣り

今年の冬は寒さ続き、釣りへの欲求を萎えさせる。と言いつつも、寒さが緩めばいざ出陣の準備は出来ているのだが、好天に限って所用の仕事とタイミングが合わない。

山の神同伴の温泉も、今年に入り平山、山鹿、玉名と回を重ねている。温泉も良いが、海へ行けないとますます思いが募るのも事実である。

しかし、天候や海況に細心の注意を払わねば、冬の海は極めて危険だ。海へ出られない辛い休日には、何もする事がないかといえ、あるのはある。例えば道具の手入れ。竿やリール、大物に備えてのワイヤー仕掛けの作製と、錆や劣化のチェック等。特に竿に関しては十人十色。「石鯛釣り」という狭いジャンルに身を置く輩には、かなり強いこだわりがある。長さや硬さや調子、果ては素材、

デザイン迄、徹底的にこだわる事も珍しくはない。

それだけ思い入れが強いと、愛着がわいたとしても不思議ではない。潤滑油やワックス、椿油等を軟らかい布で優しく拭きあげ、いつの日にか対峙する大物との格闘をイメージしながらのその作業は、時間を忘れてしまう。

写真は左からオリジナル手作りの竹竿、オリムピック製の孤礁、屋久石鯛、ポロン怒涛、ポロン無双石鯛。私にとってどれも大切な宝物である。

磯の旅人



花の山旅⑤ 川崎病院医師 日吉澄之

12月、3郡山系砥石山、鬼岩山を縦走した時、下の林道でヒヨドリジョウゴの赤い実が珊瑚か真珠のように輝いていました。赤く熟した実はひよどりが好んで食べるころからついた名前です。上戸（じょうご）とは、下戸（げこ）の反対で好きとかこのむと言う意味で、酒をのみながら笑う人を笑い上戸と言います。茄子科のヒヨドリジョウゴは真っ赤で鳥を誘いますが、実は苦く有毒だそうです。山を歩いているとこの実を時々見ますが、ひよどりがつついているのを見たことはありません。



長峰小学校の6年1組（31名）が、3月21日に東京で開催される「ロープジャンプ 小学生 大なわとびNo.1決定戦 決勝大会」への進出を決めました。

「卒業前にドラマを創りたいと思いました。ロープジャンプは、みんなで力を合わせないと跳べません。絆が強まります。また、練習をしていてレベルアップを目指すようになり、自分自身を高める姿が見られるようになりました」と、クラス担任の大坪初次郎教諭（教員歴32年）は、柔和な表情で語ります。

練習風景を見るために、学校の昼休みに体育館へ向かったのですが、外まで聞こえてくる速くて規則性のある「ドン、ドン、ドン、ドン」という大きな音に、「えっ？こんな速く跳ぶの？」とまずビックリ。想像以上に速いスピードです。また、全国大会出場ともなれば、ピリピリしたムードで猛練習だろうかと思いきや、子供たちの明るい笑い声が絶えない元気の雰囲気です。

「みんなで力を合わせて、きつい練習を乗り越えられたのが良かった」「ひっかかった時に、みんながドンマイと声をかけてくれたのでへこんだりせず、がんばろうと思つた」「練習しているうちに、みんながどんどんうまくなっているの、ぼくも置いて行かれないように練習するのがよかった」「ロープジャンプは、競技人数が限られているので、レギュラーになれる人が11名いて、クラス全員が競技に出られないのがつらい」など、子供たちは練習を通じて様々な想いを抱きながら、確実に成長をしているようです。

来月の決勝大会に向け、チームキャプテンは、「九州大会では、練習で出なかつたぐらいの力がたつたので、全国大会では練習をがんばって、それ以上の力が出せるといい」という抱負を胸に、チームをまとめていきます。

頑張れ！
長峰小6年1組！！
（大坪 エミ）